

紀の川流域委員会準備会議委員の皆様への要望書

本会は、貴流域委員会準備会議による委員公募に対して、2名の委員候補を推薦して提出しました。

3月7日、本会代表以下4名は、上記の件で貴準備会庶務の和佐氏と河川調査官水野正光氏ほか1名と話し合いを持ちました。この話し合いををもとにして、以下のことを貴準備会委員の皆様には要望致しますのでなにとぞよろしくご配慮の上、至急に御返答くださるようお願い致します。本会からの正式な委員応諾については、その返答を待つて決めさせていただきます。

あくまで、本会からの委員候補は2名として推薦致しますのでご高察下さい。

3月7日の話し合いでは、本会より2名を推薦したにもかかわらずなぜ1名となったのか、納得できる説明はありませんでした。本会の会員は200名を超えており、かつてダム審議会に出した署名は1600名を超えています。紀伊丹生川ダム建設に関する市民の側からの取り組みにおいては、すでに提出済みの書類の通りであり、その実績は本会を超えるものはないと考えています。3月7日の話し合いによれば、貴流域委員会の中で当ダム建設の占める比重はかなり大きいとのことですので、それならば本会より2名の候補を出したことはむしろごく普通のことではありませんか？おそらく委員23名の中で女性の占める率は極めて少ないことでありましょうから、男女のバランス上からみれば、本会の推薦する副代表(どちらも女性)2名を委員としてみとめていただきたくお願い致します。本会としては2名とも優劣つけがたくて推薦したわけですので、もしどうしても駄目とするなら、1名が当選したわけともう1名が落選したわけならびにその正当な理由を文書で返答ください。

紀の川流域委員会の性格についての要望

紀の川の将来について、治水、利水、環境問題など総合的に考えることについて異議は全くありません。紀の川は一つであり、県や、省庁の垣根を越えて地域住民の立場に立って将来の河川整備計画を考えることにも異議はありません。しかし、紀の川は一つでありながら、ここからここまでは国の管轄、あそこは別の省庁、又は別の県の管轄などというような縦割りの縄張り意識を持つようでは、紀の川の総合的な治水、利水、環境の根本的問題はついに解決できないでしょう。せつかく河川法に基づいて貴委員会を立ち上げる以上は、あくまで「紀の川は一つ」の原点から出発していただきたく、貴準備会の皆様に強く要望致します。ご賢察のほどお願い致します。

その他の要望

貴委員会の傍聴が誰にも出来るよう、日曜祝日などに開催してください。

貴委員会の開催場所は、和歌山市内に限定せず、流域の町で公平に開催願います。

2001年3月8日

紀伊丹生川ダム建設を考える会

代表 石神正浩